

委員会宣言

JR 東労組は、コルソホールにおいて「第 51 回定期中央委員会」を開催し、2025JR 総連春闘スローガンに基づき、ペアー一律 15,000 円満額獲得に向けてたたかっていくこと、「被害者が加害者にされた！ JR 東日本武蔵小金井駅暴行事件」において個人訴訟に立ち上がった若き組合員の決意に応え、全組合員と共に裁判支援闘争をたたかい抜くことを満場一致で確認した。

着実に鉄道利用が増加し、インバウンドも過去最多となる中、日々安全第一で業務を担い、今も雪害対応に苦慮している。第 3 四半期決算の増収増益は、それらの職場の様々な奮闘によるものであることは言うまでもない。その職場の努力に報いない経営姿勢を突破するために、労働者のためではなく経済を循環させるために行われている政労使議論に惑わされることなく、取り巻く情勢を把握して、労働組合として堂々と 2025JR 総連春闘をたたかっていく。新たに立ち上がった JR セントラル労組の仲間も含め、JR 総連に結集するすべての仲間と「統一要求・統一闘争」をつくり出し、産業間格差やグループ内における賃上げの課題も踏まえて、JR バス東北本部、JR バス関東本部、ステーションサービス協議会と共にたたかい抜いていく。

また、春闘と夏季手当の同時期議論を原則とすることなく、好調な業績を生み出している職場の労苦に報い、期末手当の年間 6 ヶ月以上の月数水準の回答を求め、団結強化でたたかっていくのではない。

職場は、要員不足の中「融合と連携」という名の下に各種施策がおびたしく進められ、発言にもあったように、施策の説明も十分に行われず、プレス発表されなければ団体交渉でも答えられない、希望しない突然の異動、出面も確保されない、教育や訓練もままならないなど様々な問題がある中、何とか業務を回している状態だ。組合員・社員は疲弊するばかりで心身の健康を保てず、安全やサービスも崩れている状況は、健全な企業運営とは程遠い。施策のスピード感に管理者をはじめ、ほとんどの社員がついていけない職場現実を経営陣は見ることなく「職場現実との乖離」は増大するばかりだ。その乖離が職場の歪みとして現れ、事故や事象が後を絶たない。さらに、職場では異常な職場管理が横行する有様である。

発言にもあるように、職場の問題を解決すべく団体交渉で議論を行ってはいるが、不誠実な回答などを見れば、労使議論で解決していくこととした「6 項目」を遵守していないのは、明らかに「6 項目」を示した会社側であることを指摘せざるを得ない。そのような姿勢は断固として許さない。

職場活動のさらなる強化によって、「安全・健康・ゆとり」ある職場を私たちの手で作り出していくために、経営のパートナーとされる社友会との違いを明確にして、過半数代表者選挙の勝利に向けて実践を強化していこう。施策の検証を強化し、問題や課題を明らかにして全組合員で会社施策、経営姿勢に立ち向かい、不当・不法行為に悩み苦しむ仲間へ寄り添い、団結・連帯を強化していこう。

18 春闘以降、300 名を超える組織拡大が実現できている根拠は、職場現実即ち即した取り組みや、レク・サークルなどでの関係づくり、仲間の思いに立ち「抵抗とヒューマンイズム」の精神を根底に活動を行ってきたからである。JR 東労組運動を職場で仲間と共に実践することでしか成しえない様々な教訓は、私たちの財産であり、大きな力である。

地域の足を守り、職場と仕事と生活を守る取り組みを JR 東労組としてこれまでも真摯に地道につくり出してきている。地域の方々との取り組みや、自治体や議員等との連携をさらに強化していこう。

戦後 80 年、JR 羽越本線脱線事故、JR 福知山線脱線事故から 20 年という節目の年である。現地に立ち、歴史から学ぶ姿勢を大切に、平和な社会の実現に向けて連帯するすべての仲間と取り組んでいく。

「新生 JR 東労組運動宣言」を掲げて 5 年目を迎える。国鉄採用の先輩方が退職した節目であるからこそ、国鉄改革の理念である「雇用の確保」「鉄道の復権」「新たな労使関係の構築」を実現するために団結を強化してたたかい抜いてきたことを改めて捉え返そう。これまで築き上げてきた鉄道のチームワークを破壊するような、過度な競争を煽る人事賞金制度には明確に反対する。そして組合員の雇用と利益を守り抜くため、不当・不法行為とあらゆる妨害を許さず、1 万名組織をめざし、組織強化・拡大を実現していこう！ JR 東労組運動を堂々と職場から推し進め、いかなる困難にも全組合員で雄々しく立ち向かっていこうではないか！

以上、宣言する。

2025 年 2 月 6 日
東日本旅客鉄道労働組合
第 51 回定期中央委員会